

**薬学部**

I	教育の水準	.....	教育 22-2
II	質の向上度	.....	教育 22-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 薬科学科（4年制）と薬学科（6年制）を設置しており、平成27年5月1日現在の専任教員数は71名、特任教員数は23名となっている。また、専任教員一人当たりの学生数は約2.6名となっており、少人数教育と個別指導を行っている。
- 平成24年度に寄付講座（疾患細胞生物学）を増設し、大学と社会との連携、創薬研究及び教育の推進を図るとともに、医師や薬剤師、国公立の研究機関や製薬企業の研究員等、実務に精通した非常勤講師が教育に加わり、臨床や創薬の現場で必要な知識を身に付けるための講義を行っている。
- すべての講義科目について「学部授業評価アンケート」を実施し、総合評価（5段階）で3以上の評価をした学生の割合は、平成22年度の90.3%から平成27年度の92.1%へ上昇している。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関連する講演会を年1回開催し、毎回約50名から約60名が参加している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 高水準の薬学研究活動を行う基礎を身に付けさせるため、演習・実習科目の配分を多く設定しており、授業形態は、薬科学科は講義54.3%、演習2.2%、実習43.5%、薬学科は講義37.5%、演習1.6%、実習60.9%となっている。
- 3年次実習科目のティーチング・アシスタント（TA）を、平成21年度の平均11名から平成27年度の平均14名へ増やし、きめ細やかな指導を行っている。
- 平成27年度には、実務に即した教育に配慮し、「分子生物学」、「医療薬学」、「医療科学」等、臨床や創薬に携わった教員による授業科目を8科目開講している。また、薬学人としての倫理観を涵養するため、薬害患者による薬学特別講義を毎年度1回開講している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### 〔判定〕 期待される水準を上回る

#### 〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の標準修業年限内の卒業率は、薬科学科は98.1%、薬学科は100%（卒業生は平成23年度から）となっている。
- 薬学科における新卒者の薬剤師国家試験合格率は、平成25年度以降は100%を維持している。
- 第2期中期目標期間に筆頭著者の論文を含め、薬学卒業実習の研究成果を学術雑誌（査読有り）に平均5件発表している。また、国内外における学術集会での発表数は平均35件となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間の薬科学科卒業生のうち、薬学系研究科や他大学に進学又は編入学した者は97.2%となっている。
- 薬学科卒業生は平成23年度から平成27年度において、約56.1%は官公庁や企業等に、約17.1%は病院や薬局等に就職しており、約19.5%は薬学系研究科に進学、約7.3%は他大学に進学又は編入学している。

以上の状況等及び薬学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 標準修業年限内の卒業率は、第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）の96.1%から第2期中期目標期間の98.3%へ増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 薬学卒業実習の研究成果について、平成27年度の国内学会における発表数は21件で、第2期中期目標期間を通じて学術雑誌に筆頭著者として論文が掲載された実績が複数ある。
- 平成24年度に薬学科6年次生、平成25年度に薬科学科4年次生が学業成績優秀者（総長賞）として表彰されているほか、平成24年度から平成27年度において、学会賞等学外からの受賞は11件となっている。
- 薬学科新卒者の薬剤師国家試験の合格率は、平成23年度の57.1%から平成24年度の87.5%へ上昇し、平成25年度から平成27年度は100%を維持している。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

### 2. 注目すべき質の向上

- 第2期中期目標期間において、薬学卒業実習の研究成果の論文が学術雑誌（査読有り）に複数掲載され、筆頭著者の論文を含め平均5件発表しており、国内外における学術集会での発表は平均35件となっている。
- 毎年1月に受験予定者に模擬試験を課す取組により、薬学科卒業生の薬剤師国家試験の合格率（新卒者）は、平成23年度の57.1%から平成24年度の87.5%へ上昇し、平成25年度から平成27年度は100%を維持している。